

水銀と環境と音楽について

（IHテクノロジー-欄 瑞希祐作）

1. 総括

「水銀と環境」は、食物連鎖から来る公害病、「環境と音楽」豊かな心を作り出す為の相互補完的役割というものが考えられるが、「音楽と水銀」という関係に共通点はあまりないと考えられる。

しかし、このような切り口で色々と考えてみると、意外なところに関連性があるようにも思える。今回はこのつながりそうでつながらない関連性について「心のECO」という観点から考えてみた。

2. 内容

2.1 音楽と環境と水銀の関連性

「水銀と環境」「音楽と環境」については、それぞれに関連性が考えられるが、「水銀と音楽」という点から見ると、関連性がなかなか見つからないように思えるが、古来より「薬」としての「水銀」は音楽家の中でも使われていた。

いわゆる特効薬として使われていたが、実際は「毒」であった。なぜ使われたかというと、「依存性」による中毒というのが多く、音楽家も含め一芸に秀でたものほど、うまくいかなくなると依存性の高いものに溺れていく傾向にある。まさに「水銀」がその一つであった。

2.2 水銀とは

周知のごとく水銀とは常温では稀有な液体金属である。その特性から歴史上数々の発見の由来となっている。また食物連鎖による公害病を引き起こした初めての事例としての存在でもある。公害病としての食物連鎖は、最近ではマイクロプラスチック問題も同様に危惧されているところではあるが、これらの事例は、人間がいかに将来的に環境問題をクリーンに解決していけるか、その資質を問われているとも言える。

2.3 環境問題としての水銀除去

公害病としての観点から見た水銀はどうも「負の遺産」として見られがちだが、実際には生活の中ではなくてはならない必需品であるというのも事実である。外に出してはいけないが、必需品であるが故、回収していく再利用していくシステム、つまり水銀の循環リサイクルのシステムが必要であると思われる。

「回収」という点で見れば、最近話題となっているマイクロプラスチックも同じように「回収しなくてはならない」問題である。ただし水銀のような化学反応を起こさない分、人間が的確に処理すれば起こらなくすることは可能かも知れない。そこは水銀とは違う。「環境からの回収」は、もちろん国家や組織レベルの対応が必要なこともかもしれない。でも一人一人の環境問題への接し方・対処する為の意識が一番大事なことである。

2.4 音楽と水銀の共通点

音楽と水銀の共通点について、「楽曲を作る」という視点からのアプローチ。中毒性のあるもの、心酔するような魅力を持つ曲ができると作家冥利に尽きるものではある。

私にとって曲を作ることは「夢」であり、「心のECO」を満たすものである。そしてそれが「心のECO」につながり、環境問題を解決するための一助となる。環境をいかに大事にするかという問題を意識し、気遣う心を宿すためには、自らが周りに配慮できるようになる必要がある。そこで初めて環境問題に寄り添っていくだけの知恵と勇気を身につけることができるのだ。

最後にどうすれば良い音楽が書けるかについて言及する。「稀有性」「神話性」「中毒性」があって初めて、人に訴えかけられる音楽ができることとなる。ただし、このような曲を描ける人は世界中にたくさんいるわけで、さらには「知名度」がないとかなかなかうまくやっていけないというのが実際のところである。

以上